

ポルト市・ヴォスロール村姉妹都市提携 40 周年及び、ライデン市姉妹都市
提携記念訪問団参加報告書

長崎市議会議員 中村 照夫

今回の 3 都市訪問の目的は、1978 年のポルトガルのポルト市、フランスのヴォスロール村との姉妹都市提携から 40 周年を迎える記念の年であることから、両市を訪問するとともに、昨年姉妹都市を提携した、オランダのライデン市を訪問し、各都市との今後のさらなる関係強化と交流促進を図ろうとするもので、私は、公式訪問団 11 名、経済交流団 9 名、市民訪問団 21 名、の一員として参加しました。

オランダのライデン市は、出島の商館医シーボルトが日本を離れた後、1830 年から 1847 年まで日本学研究を行った町で、彼が生活した住まいがシーボルトハウスとして、日本で収集した様々な品が数多く展示され、日本の当時の生活を紹介しています。ライデン市においては、シーボルトハウスの視察、ライデン大学植物園視察、ライデン市長表敬訪問、国立民族学博物館視察、等行いました。民族学博物館では、日本担当学芸員のダン・コックさんから、昨年オランダで、川原慶賀が描いた、長崎港の出島の屏風絵が発見されたことが報告されました。また、ライデン大学の日本学科の生徒さんたちで構成する「よさこい雷電」の皆さんがよさこいを披露して我々を歓迎していただきました。

フランスのヴォスロール村は、長崎市の外海地区の人々を救済するため私財をなげうって貢献されたド・ロ神父の出身地として姉妹都市を締結しています。ヴォスロール村は、フランスの北西部ノルマンディー地方の住民 350 名ほどの小さな村ですが、締結以来毎年、外海地区の皆さんとの交流を重ねられ顔見知りの皆さんばかりとのことで、デムラン村長はじめ多くの村民の出迎えを受け、和やかな交流ができました。

ポルトガルのポルト市は、16 世紀から 17 世紀にかけて長崎に入港したポルトガル船の母港であったことから、姉妹都市を締結し交流を深めています。ポルト市は、リスボンに次ぐ同国第 2 の都市で、大航海時代の拠点として発展したきれいな港町です。主な産業は、商工業と水産業で、ポートワインの名で知られるワインの名産地として世界的に有名な都市です。

ポルト市内視察では、テイラー社のワインセラー、ドン・ルイス 1 世橋、世界で 1 番美しい書店といわれるレロイ・イルマオン書店を視察し、旧市街地で路面電車の体験乗車を行いました。ドン・ルイス 1 世橋は、1886 年に建設された、道路と鉄道の間用橋で、上層の橋は歩行者と電車が通り、下層の橋は、歩行者と自動車を通る構造となっています。

10 月 1 日は、ポルト市庁舎において、ヒロシマ・ナガサキ原爆展を開催し、

田上市長、ルイ・モレイラポルト市長が挨拶しました。そのほか、長崎・ポルト姉妹都市提携40周年記念現代美術交流展も行われ、両都市の児童画とアーティストの現代美術の展示も行われました。また、リスボンでは、日本大使館を訪問し、新美特命大使と日本とポルトガル、長崎市とポルト市との関係や交流等について意見を交わしました。

〈所感〉ライデン市の訪問は、平成23年、私が市議会議長を務めた時以来3度目の訪問です。シーボルトは、出島をとおして日本を世界に広めています。そのシーボルトコレクションは、2万を超える資料が、ライデン市にあり、長崎市は、これまでも出島復元のためにライデン市にあるシーボルトハウスや、国立民族学博物館の多大な協力をいただいております。このため是非長崎市とライデン市の友好都市締結を申し入れるため田上市長と訪問したのが始まりです。その後昨年姉妹都市の締結が実現し、昨年の出島の出島表門橋開通の折は、オランダの皇室の妃殿下をはじめ多くの皆さんがお祝いに駆けつけて頂きました。また、姉妹都市締結を記念して、オランダの運河に、日本の桜を植樹してはどうかと、ライデン市長に申し入れたところ、是非実現したいとの回答をいただき、平成26年2度目の訪問を行い、レンブラント公園の一角に、桜を植樹しました。

今回の訪問では、川原慶賀の長崎港の出島の風景を描いた絹本著色八曲1隻屏風がオランダで発見されたとの報告もあり、今後完全修復後は、ライデン国立民族学博物館の日本展示室の中心に重要作品として展示されることとなっています。

フランスのヴォスロール村の訪問では、村民あげての大歓迎を受けました。村内の農家、聖オバン教会、ド・ロ神父の墓の視察など行い交流を深めることができました。またポルト市での原爆展の開催など、今回の訪問は、今後の各都市とのさらなる関係強化と交流促進に大きな役割を果たせたものと思います。